

第4分科会

大学における自校教育の 効果と課題

報告者

喜村 仁詞 氏	岡山県立大学 保健福祉学部現代福祉学科 准教授
元根 朋美 氏	帝塚山大学 全学教育開発センター 准教授
大谷 由香 氏	龍谷大学 文学部 佛教学科 特任准教授

コーディネーター

坪井 剛 氏	佛教大学 仏教学部 准教授
--------	---------------

大学における自校教育の効果と課題

コーディネーター

佛教大学 仏教学部 准教授 坪井 剛

○本分科会のねらい

現在、多くの大学では「自校教育」や「建学の理念」科目が実施されているが、学生側からすると、自身の興味ある専門分野とは異なった学修である場合も多く、また不本意入学者にとってはそもそも学修する意義を見出せていないケースも見受けられる。ただ、大学がそれぞれの教育目標や建学の理念を達成していくためには、これらの授業で成果を上げていくことが重要な課題となるだろう。そこで本分科会では、「自校教育」や「建学の理念」科目の効果を考えるとともに、実際に授業を担当している教員の事例報告から、その授業運営に関する工夫や課題などを共有することを目的として、実際に「自校教育」「建学の理念」科目を担当してこられた3名の方に報告をお願いした。

○報告の概要

まず喜村仁詞氏より、今回の総論として「自校教育がもたらす効果—大学満足度や自校推奨意識の向上—」という論題でご報告いただいた。まず、自校教育の効果として、「大学生活への適応」「愛校心の向上」「不本意入学者対策」の三つが期待されることが確認された。その上で、受験生の志望校選択においては在学生のクチコミも参考にされるため、「愛校心の向上」は学生募集の広報にも有効であること、自校教育で肯定的な大学情報を提供することで不本意入学者が納得して大学生活を送りうることを示された。また、実際に行われたプログラム事例の紹介から、学生間の人間関係の深化が自校教育の成果をより向上させる可能性があることを指摘された。

次に元根朋美氏より、具体的な事例紹介として「クイズ形式を取り入れた自校教育の実践と学生の反応」をご報告いただいた。報告者は、教職課程科目や一般教養科目で自校教育を実践されており、前者においては目指す教員像を思い描けなかったり教育実習への悩みを抱える学生の不安解消のため、後者では不本意入学者や学びに消極的な学生の学習意欲向上を目的とされているとのことであった。また、敷居低く参加できるよう、クイズ形式を取り入れた参加型授業として展開されており、学生からは肯定的な反応がみられたことを具体的なアンケート結果から示された。そこから、自校教育とは学生の人間関係と大学への所属感を繋ぐ糸のようなものではないかと結論づけられている。

最後に大谷由香氏より、同じく事例紹介として「宗教系私大の「建学の理念」科目の事例報告とその課題」をご報告いただいた。まず「建学の理念」科目の課題面として、クラス編成の問題や学生自身の学部での学びに直結しがたい点などを指摘された上で、実際に担当された「仏教の思想」科目での授業運営・工夫について共有された。この授業では、「SDGs」と絡めて展開されており、学生が中高生段階で得た知識を切り口とすることが「宗教」を理解させる上で有効であること、そのためには担当教員の興味関心が社会に開かれている必要があること、現代的な思想・理念とは相容れない“不都合な真実”であっても学生に提示すべきで、それらを学生の“自身で考える力”に結びつけるためには、歴史や文学の文脈も必要になることを提言された。

○報告に対する質疑ならびに全体討議の内容

質問はオンライン・対面の両方で受け付けた。まず、複数の参加者から質問に上がったのが、報告者の各校において、自校教育に係わる教員数や体制や、コーディネートの状況など、その実施方法がどのようなものかといった質問が寄せられた。また、これに関連して、担当する教員に対する研修がどのように行われているかといった質問も上がり、各報告者からそれぞれの状況が説明された。

同じく全報告者に対して、自校出身の教員・職員の存在が自校教育のキーポイントになり得るか、その活用についての意見が求められた。それぞれの報告者からは、大学のことをよく知っている教職員が重要であろうという回答があった一方で、自校出身者でも温度差があるといった意見や、自校出身者ばかりで

は昔のやり方に拘る可能性があり、他校出身者とのバランスが必要なのではないか、といった意見も出された。

また、卒業生の愛校心について、この点に関する調査が報告者の所属する各校では行われているのか、という質問があった。各報告者からは、卒業生アンケートを行っているが、愛校心に関する質問があるのかどうかは把握していないと回答され、今後、そういった調査も重要であろうことが共有された。

次に各報告者への個別の質問も寄せられた。まず元根氏の報告に対し、クイズはどのタイミングで行っているのかという質問が寄せられた。元根氏からは、15回のうち7回目の授業で行っており、その前後には別のプログラムを実施していると回答された。

また喜村氏に対し、入試のあり方が多様化して、入学者の大学への理解度も異なる中で、どのタイミングで自校教育を実施するのが効果的と考えるかという質問があった。喜村氏からは、やはり入学後最初の学期で実施するのが効果的ではないかと回答され、また元根氏から補足として、自校教育を受けた学生のアンケートでは、これから進路を決める高校生の段階で知りたかったという意見もあったことが紹介された。

スライド1

2024.2.23 大学コンソーシアム京都FDフォーラム

自校教育がもたらす効果

-大学満足度や自大学推奨意向の向上-

岡山県立大学 喜村仁詞
保健福祉学部現代福祉学科准教授
アドミッション・高大連携センター長

岡山県立大学
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

本研究はJSPS科研費 21K02661の助成を受けたものです

スライド2

Ajenda

- 1.自校教育とは(定義・目的)
- 2.自校教育がもたらす効果
(愛校心や自大学推奨意向の向上・不本意入学者対策)
- 3.自校教育プログラムの事例
 - 1) 高知大学
 - 2) 西九州大学・長崎純心大学
 - 3) 九州地区の私立大学(A大学)
- 4.まとめ

スライド3

1.自校教育とは

(1)定義

- 1)日本私立学校振興・共済事業団(用語辞典より)
学生に対して、大学の建学の精神や歴史、社会的な役割や、行われている教育研究の内容や成果など、**自らが所属する大学(自校)の特性や現状を教える授業**
- 2)大川(2011)
大学の理念、目的、組織、沿革、人物、教育・研究の現況など、**自校(自学)に関わる特性を教育題材として実施する一連の教育・学習活動**

↓

自大学に関する内容の授業

スライド4

(2)自校教育の目的

- 1)中央教育審議会(2008)
大学生生活への適応・当該大学への適応のため、「自分の居場所づくり」「自校の歴史の学習」等の実施が期待される。
- 2)大川(2006) ※自校教育は2領域から構成される
 - ①自大学や所在する地域に関する教育
自校理解教育や大学史(自校史)教育、地域理解教育など
➡ 愛校心の涵養(当該大学への適応)
 - ②大学での学びへの導入教育
初年次教育や学習スキル習得教育、専門領域導入教育など
実際には自大学に関する内容以外も含まれている
➡ 学習・研究への積極的姿勢(大学生生活への適応)

スライド5

- 3)寺崎(2009)
国立大学:自校の現状や歴史の理解
公立大学:地域理解・自校理解・専門教育の一環
私立大学:建学理念や自校史の理解・愛校心の育成
不本意入学者に自大学の特性を周知する:安堵感を得る
- 4)湯川ら(2010)
国公立大学:大学で学ぶことの理念の周知
私立大学:主に愛校心の育成

↓

「大学生生活への適応」「愛校心の向上」
「不本意入学者対策」

スライド6

2.自校教育がもたらす効果(愛校心・自大学推奨意向・不本意入学者対策)

「愛校心の向上」

自大学について学ぶ(理解を深める)
ことで、なぜ愛校心が生まれるのか?

スライド7

<マーケティング理論の援用>
 ◎顧客満足理論(顧客満足生成ルート)
 顧客満足度が愛着・帰属意識に影響を与える
 (顧客満足度が向上すると、愛着・帰属意識も向上)

事前期待 → 事後評価 → 顧客満足度 → 愛着・帰属意識 / 推奨意向

(Oliver 1980を参考に作成)

顧客満足度は、事後評価が事前期待を上回ると向上する。
 事前期待 < 事後評価 = 顧客満足度が向上
 事前期待 > 事後評価 = 顧客満足度が低下

スライド8

想像以上!

「想像以上」を生み出すこと
 未知の魅力(価値)の知覚

↓

顧客満足度が向上

↓

愛着・帰属意識も向上

スライド9

顧客満足度を大学満足度に置き換えると

大学満足度が向上すると愛校心も向上
 (顧客満足度) (愛着・帰属意識)

入学前評価(事前期待) → 入学後評価(事後評価) → 大学満足度(顧客満足度) → 愛校心(愛着・帰属意識) / 推奨意向

自校教育「想像以上」を生み出す役割

自校教育(自大学について学ぶ)により、
 入学前には知らなかった大学の肯定的な知識を得る
 入学前評価 < 入学後評価 = 大学満足度が向上

スライド10

大学満足度がもたらすもう一つの効果!

顧客満足生成ルートに基づく

推奨意向(クチコミ)も向上

入学前評価 → 入学後評価 → 大学満足度 → 愛校心 / 推奨意向

愛校心が向上すると、
 大学の肯定的なクチコミを発信するようになる

学生募集広報に寄与

スライド11

なぜ学生募集広報に寄与するのか?

受験生の大学情報の探索手段とは?

◎購買行動における情報探索(田中 2008)

- ①自身の持つ情報(これまでの購買経験等)を探索する(内部探索)
- ②それでは情報が不足する場合は外部の情報を探索し、購買を行う(外部探索)

内部探索 → 外部探索

スライド12

<高校生の大学進学における情報探索>

大学への進学経験がない高校生は、
 おのずと「外部探索」が中心となる。

※外部情報は2種類

- ①大学案内や大学HPなど、大学が自ら発信する情報
- ②クチコミや偏差値など、第三者による評価

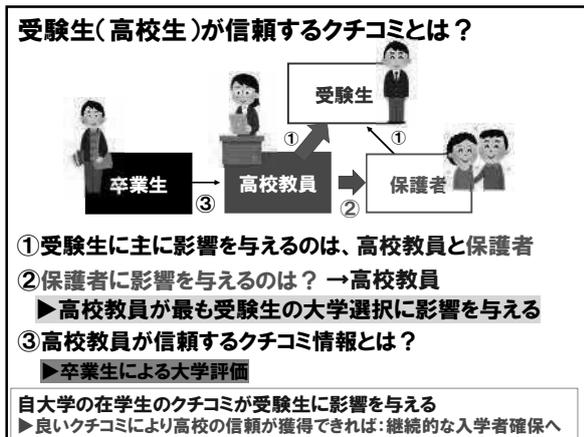
⇒クチコミや偏差値などの第三者評価がより信頼される(濱岡 2007)

↓

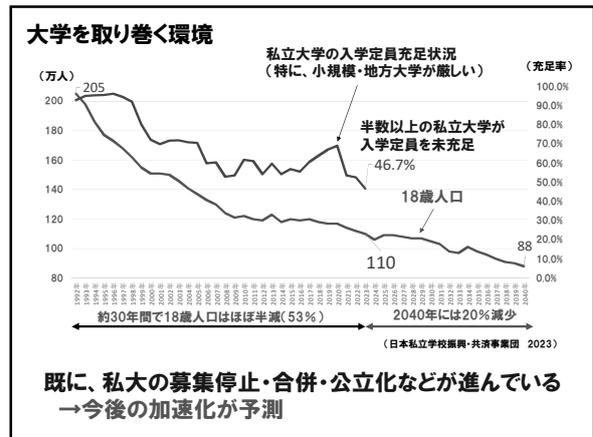
これが偏差値が大学選択に影響を与える理由
 →しかし、大学は偏差値に容易に関与できない

一方、クチコミは管理可能

スライド13



スライド14



スライド15

- ・従来の入試広報部門が実施する募集広報活動だけでは既に限界
- ・部署を超えた学内資源の活用が必要 (総力戦)

これまでも、カリキュラムや研究成果、進路状況、資格取得率などが重要な広報内容となってきましたが、

↓

在学生は有力な大学の広報媒体
 →肯定的なクチコミ発信が高校の評価を高める

自校教育も学生募集活動に位置付けられる

スライド16

「不本意入学者対策」

**学生募集広報の妨げとなる
不本意入学者**

→大学に不満を持つ者は否定的なクチコミ発信を行う

スライド17

一定割合を占める不本意入学者
 <先行研究における不本意入学者の比率>

- ▶関西の中堅私大の調査:41.5%(竹内2022)
- ▶国立大学の調査:35.9%(小林2021)

なぜ、不本意入学者が多いのか？

理由:大学教育の財としての特殊性
 消費者が好きなサービスを選定できる(誰もが希望する大学に進学できる)訳ではない。入試によりサービス提供者(大学)が消費者(入学者)を選別する。

→不本意入学者の発生(どの大学にも不本意入学者は存在する)

スライド18

それでは、
**不本意入学者は、
 ずっと大学に不満を持ち続けるのか？**

認知的不協和理論(Festinger 1957)

不満を持つ者は、理想と現実の差である不協和(不満)を低減・解消したいと考え、自らで肯定的な情報を探索しようとする。

スライド19

認知的不協和理論の事例

第1希望の商品が購入できなかった場合

例：Aのスポーツカーがすごく欲しかったんだけど、結局、Bのコンパクトカーを買うことになった。

(欲しかった車:A)  (購入した車:B) 

「A車が欲しかった」という態度と「B車を買った」という行動との間に不協和(不満)を感じるようになる。

スライド20

認知的不協和理論の事例

<このような場合の行動>

A車の悪い点やB車の良い点を探す。

①A車のネガティブな情報を探す。
→家族全員が乗れない。維持費が高い。

②B車のポジティブな情報を探す。
→燃費がいい。税金も安い。

↓

評価ポイントを変えて、自分を納得させようとする

「やっぱり、自動車は家族全員が乗れて維持費が安いのが大事。だからB車の購入が正解だった。」など

スライド21

不本意入学者は、

大学に対して否定的な態度を取り続けたい訳ではない。

本人も自大学への進学を納得したいと思っており、大学の良さを探そうとしている。

大学による肯定的な大学情報の提供が有効

肯定的な大学情報の取得機会:「**自校教育**」

スライド22

3.自校教育プログラムの事例

大学への理解を深めるプログラムの事例

▶ **演習形式**

① 広報内容の検討ワークショップ(高知大学)
② 学内歩き(長崎純心大学・西九州大学)

▶ **講義形式**

③ 自校教育を柱に据えた科目(A大学)

スライド23

① 広報内容の検討ワークショップ(高知大学)

【2019・2020年度】
共通教育科目「はじめてのマーケティング」において実施
授業で学んだマーケティングの知識を使って、グループワークで自大学の広報内容(良いところ)を考える

外部環境	内部環境	在学生が提案する広報内容	既存広報
<機会> 豊富な研究フィールド 生活環境の良さ	<強み> 先進的な研究 カリキュラム 生活サポート 卒業後の進路	① 豊富な研究フィールド×研究内容	有
<資源> 南海トラフ地震 地理的環境	<弱み> 施設の高さ 知名度の低さ	② 豊富な研究フィールド×教育内容	有
		③ 地理的環境×卒業後の進路	有
		④ 地理的環境×生活サポート	無
		⑤ 南海トラフ地震×教育内容	無
		⑥ 南海トラフ地震×生活サポート	無

「高知県での生活環境」の情報発信が不足していることが明らかに
①メインキャンパス周辺:住みやすい環境だが、県外者には様子がわからない。
②南海トラフ地震への対応:「周知されている事柄」なので隠さず対応を発信すべし。

スライド24

予想しなかった効果:学生の大学への意識の変化

① 高知大学への理解が深まった。(自校理解)
② 高知大学が今まで以上に好きになった。(愛校心)
③ 高知大学のことを後輩に発信したい。(推奨意向)

↓

そこで、2020年には様々なグループ編成で調査
同一学科のみ、同一学部複数学科、複数学年複数学部 など

単一学科のグループが最も効果が高い
▶ **人間関係が影響?**

スライド25

また、第2志望以下者にも効果をもたらすことが明らかに

竹内 2014
第2志望以下の大学に入学した者が不本意入学者となりやすい
上市・栗山・齋藤・楠見 2003
浪入した後悔よりも第1志望の大学を受験しないで第2志望以下の大学に進学したことへの後悔の方が大きい。また、浪入した場合の後悔は合理化しやすいが、第2志望以下の大学に進学したことによる後悔は合理化しにくい。

↓

不本意入学者対策として有効？

スライド26

②「学内歩き」への取り組み(長崎純心大学・西九州大学)

岡嶋 一郎教授
西九州大学 子ども学部心理カウンセリング学科教授
日時:2023年4月26日 16:30~18:30
場所:西九州大学 佐賀キャンパス

<着想に至ったきっかけ>
「長崎さるく博06」
「さるくとは、まちをぶらぶら歩くという意味の長崎弁。」

日本初のまち歩き博覧会
まち歩き+ひと活かしの具現化(資源の掘り起こし、強みの活用)
3つのまち歩きメニュー(遊さるく・遊さるく・学さるく)
参加者数1.023万人、期間中の観光客数776万人

その場所で生活する者が普段は意識していない構造物や自然物にあえて目を向けるようにならな生活場所を歩く
「探索型街歩き」
観光客だけでなく、「地元の人」が多く参加。
「街の見直し」が行われる

「これだ！」と閃き、「学内歩き」を考案

探索型街歩き→地域の新たな発見→街が好きになる

スライド27

長崎純心大学における事例
<マリア像を探せ>

学内に点在するマリア像を探して大学構内をグループで探索する
対象(実施群):3年生(ゼミ生)8名
※(統制群:同じ学科の3年生53名)
実施前・実施直後・2週間後の印象を調査

マリア像への印象のみならず、大学への印象も実施前よりも向上

<学生の変化>

①未知の発見:
「日頃は無意識に歩いている学内も、少し意識するだけで沢山気づくことがあった」
②校風への気づき:
「改めてここがカトリックの学校なんだと思った」
③知への興味:
「あまり行かない様だと、ここは何をする様なのかと、疑問に思うことがあった」

スライド28

西九州大学における事例
<学内ウォークラリー>

<対象者>3年生のゼミ生7名
グループで学内の「創設者」の足跡を辿る。(ポイントでのミッションをこなす)
・3名程度で行動し、設定された問いへの回答を一緒に考える。
・チェックポイントでは、必ず集合写真を撮影する。

【成果1】大学理解を深める
学内の創立者まつわる施設等を訪れ、観察することで、大学の歴史や創立者の足跡への理解を深める。特に創立者の足跡を知ることが肯定的な大学情報を得ることに繋がる。

【成果2】コミュニケーションの増加
コロナ禍もあり、これまで同じ学科でも互いに話をしたことがなかった者同士のコミュニケーションの場となった。

【成果3】大学満足度の向上
他のゼミ(学内歩きを課していない群)とでは、大学満足度に有意差がみられた。

スライド29

③自校教育を柱に据えた科目(A大学)

学生間のコミュニケーションを深めることが、学習態度の向上に寄与

回	内容	回	内容
1	ガイダンス	8	ワークショップ/ 創設者の想い
2	グループワーク(インディアンアイズ) 「建学の理想」産学一知」、建学の理念についての解説	9	ゲスト講師による特別講演またはワークショップ / SDGsって何?
3	私のオススメ、グループのオススメ キーワード: 傾聴力~人の意見に耳を傾ける	10	ゲスト講師による特別講演またはワークショップ / 大学と地域社会
5	四文字語彙 漢字の組み合わせで物語を書く キーワード: 想像力と創造力 イメージを膨らませ、故事成語を提案する。	11	ブレインストーミングとマインドマップ
6	大学進学のコスト キーワード: 機会費用	12	A大学のマインドマップ あなたたちが考える「A大学力」とは
7	ゲスト講師による特別講演 / 自大学の歴史	13	A大学 アピールプロジェクト / KJ法を用いた演劇・資料作成
		14	A大学 アピールプロジェクト / 発表、まとめと振り返り

➡ 出席率は毎回8~9割。他の授業の6~7割程度に比べ成果が出ている。

スライド30

4.まとめ(自校教育がもたらす効果)

①自大学理解が大学満足度・愛校心・推奨意向を向上させる
▶ 学生募集の重要な広報媒体である在学生の活用

②志望度の低い入学者にも効果をもたらす
▶ 不本意入学者も自身の状況を改善したいと考えている(自らで大学の肯定的な情報を取得しようとしている)

③人間関係の深化がより成果を向上させる

大学に入学
・第1志望だった!
・ちょっと不満...

グループ活動等で仲間ができた
・大学がより居場所に進化

もっと「いたい場所」にしたい
・能動的に大学の情報を取得

スライド31

参考文献

- Festinger (1957). A Theory of cognitive dissonance. *Stanford University Press* (末永敏郎 監訳 (1965). 『認知的不協和の理論—社会心理学序説—』誠信書房.
小林 元彦 (2021). 国立大学における「不本意入学」の実態：入試形態・ジェンダー・学部・大学階層に着目して. *関西教育学会年報*, 45, 131-135.
- 日本私立学校振興・共済事業団 (2023). 令和 5 (2023) 年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向. <https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouR5.pdf>(2023.0901アクセス)
- 大川一毅 (2006). 大学における自校教育の現状とその意義—全国国立大学実施状況調査をふまえて—. *秋田大学教養基礎教育年報*, 11-21.
- 大川一毅 (2011). 大学における自校教育の導入実施と大学評価への活用に関する研究 平成20~22年度 科学研究費補助金毛版 (C) 研究成果報告書.
- Oliver, R.L. (1980). Satisfaction. *M.e.Sharpe*
- 上市秀雄・栗山信子・斎藤貴浩・植見孝 (2003). 高校生の進路意思決定の継続調査 2 一進路決定後の後悔および後悔対処に関する検討—日本教育心理学会第 4 5 回総会発表論文集, 594
- 竹内正剛 (2014). 大学入試構造と不本意入学者のアイデンティティ—A O 入試は不本意入学者を減少させる施策となりえるのか—. *佛教大学大学院紀要 教育学研究科篇* 第42号, 35-51.
- 竹内正剛 (2022). 不本意入学になる人とならない人の分岐点. 広島大学出版会.
- 田中洋 (2008). 消費者行動論体系. 中央経済社.
- 中央教育審議会 (2008). 学士課程教育の構築に向けて. https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/121706/001.pdf
- 寺嶋昌明 (2009). 自校教育の役割と大学の歴史—アーカイブスの使命にふれながら—. *金沢大学資料館紀要*, 5, 1-17.
- 瀧川次義・久保田英助・野口穂香・大岡紀理子・大岡ヨト (2010). 「自校史教育」に関する基礎研究. *早稲田教育論* 24-1, 169-188.

スライド32

ご清聴、ありがとうございました

スライド1



スライド2

1. 発表者が行った自校教育の実践
2. 自校教育を行った背景
3. 2種類の自校教育と2種類の教材
 - ・ Let's tez (クイズ形式の自校教育)
 - ・ 『はじまりの物語』自校教育テキスト
4. 反応
5. 自校教育の役割とは

スライド3

発表者と自校教育との関わり

科目群	科目名 など	対象者
資格 教職課程	特別活動論 ※ 教職入門	卒業単位 + α で教員免許取得をめざす学生
<small>2014 (H26) 年 学園長WG「学園が求める教育職員像検討」のための 教学戦略委員会 初等中等教育小委員会ワーキンググループに参加 2014 (H26) 年 教育委員会で地域を知る経験</small>		
科目群	科目名 など	対象者
一般教養	社会と人間 (教育) ※ 特別講義 (キャリア形成 I)	複数学部の一般学生 心理学部 1 年生 後期開講科目
その他	入学式 (2019年のみ)	新入生、保護者、教職員

※ の科目では、現在実施していない。

スライド4

発表者が行った自校教育の実践

科目群	科目名 など	対象者
資格 教職課程	特別活動論 ※ 教職入門	卒業単位 + α で教員免許取得をめざす学生
一般教養	社会と人間 (教育) ※	複数学部の一般学生
	特別講義 (キャリア形成 I)	心理学部 1 年生 後期開講科目
その他	入学式 (2019年のみ)	新入生、保護者、教職員

※ の科目では、現在実施していない。

スライド5

発表者が行った自校教育の実践

科目群	科目名 など	対象者
資格 教職課程	特別活動論 ※ 教職入門	卒業単位 + α で教員免許取得をめざす学生
一般教養	社会と人間 (教育) ※	複数学部の一般学生
	特別講義 (キャリア形成 I)	心理学部 1 年生 後期開講科目
その他	入学式 (2019年のみ)	新入生、保護者、教職員

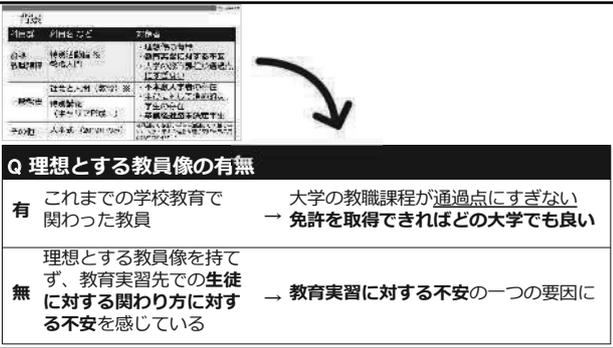
※ の科目では、現在実施していない。

スライド6

背景

科目群	科目名 など	対象者
資格 教職課程	特別活動論 ※ 教職入門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理想像の有無 ・ 教育実習に対する不安 ・ 大学の教職課程が通過点にすぎない
一般教養	社会と人間 (教育) ※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不本意入学者の存在 ・ 学びに対して消極的な学生の存在 ・ 卒業後進路未決定学生
	特別講義 (キャリア形成 I)	
その他	入学式 (2019年のみ)	総務課から依頼。学生生活課からの話の中に、大学・学園の理念を織り交ぜた自校史の話聞かせたい

スライド7



科目群	科目名 など	対象者
資格 教職課程	特別活動論 ※ 教職入門	卒業単位 + α で教員免許 取得をめざす学生
一般教養	社会と人間 (教育) ※	複数学部の一一般学生
	特別講義 (キャリア形成 I)	心理学部 1 年生 後期 開講科目
その他	入学式 (2019年のみ)	新入生、保護者、教職員

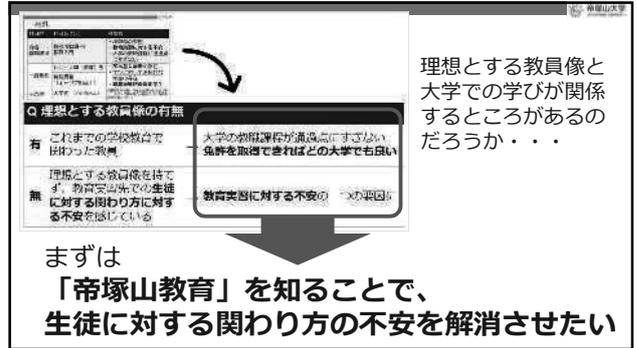
※の科目では、現在実施していない。

Q 理想とする教員像の有無

有 これまでの学校教育で関わった教員 → 大学の教職課程が通過点にすぎない
→ 免許を取得できればどの大学でも良い

無 理想とする教員像を持って
ず、教育実習先での生徒
に対する関わり方に対する
不安を感じている → 教育実習に対する不安の一つの要因に

スライド8



理想とする教員像と
大学での学びが関係
するところがあるの
だろうか・・・

Q 理想とする教員像の有無

有 これまでの学校教育で関わった教員 → 大学の教職課程が通過点にすぎない
免許を取得できればどの大学でも良い

無 理想とする教員像を持って
ず、教育実習先での生徒
に対する関わり方に対する
不安を感じている → 教育実習に対する不安の一つの要因に

まずは
「帝塚山教育」を知ること
で、
生徒に対する関わり方の不安を解消させたい

スライド9

発表者が行った自校教育の実践

科目群	科目名 など	対象者
資格 教職課程	特別活動論 ※ 教職入門	卒業単位 + α で教員免許 取得をめざす学生
一般教養	社会と人間 (教育) ※	複数学部の一一般学生
	特別講義 (キャリア形成 I)	心理学部 1 年生 後期 開講科目
その他	入学式 (2019年のみ)	新入生、保護者、教職員

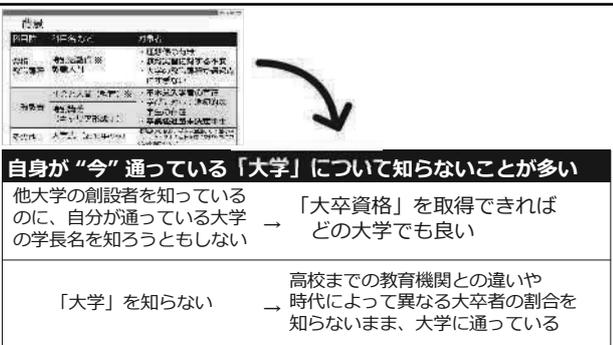
※の科目では、現在実施していない。

スライド10

背景

科目群	科目名 など	対象者
資格 教職課程	特別活動論 ※ 教職入門	・理想像の有無 ・教育実習に対する不安 ・大学の教職課程が通過点 にすぎない
一般教養	社会と人間 (教育) ※ 特別講義 (キャリア形成 I)	・不本意入学者の存在 ・学びに対して消極的な 学生 ・卒業後進路未決定学生
その他	入学式 (2019年のみ)	総務課から依頼。学生生活課からの話の中に、大学・学園の理念を織り交ぜた自校史の話聞かせたい

スライド11



科目群	科目名 など	対象者
資格 教職課程	特別活動論 ※ 教職入門	卒業単位 + α で教員免許 取得をめざす学生
一般教養	社会と人間 (教育) ※	複数学部の一一般学生
	特別講義 (キャリア形成 I)	心理学部 1 年生 後期 開講科目
その他	入学式 (2019年のみ)	新入生、保護者、教職員

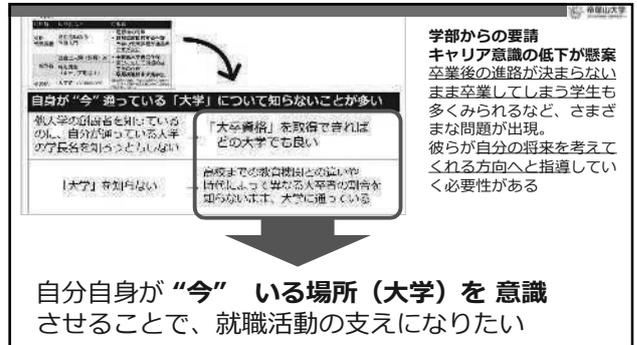
※の科目では、現在実施していない。

自身が“今”通っている「大学」について知らないことが多い

他大学の創設者を知っているのに、自分が通っている大学の学長名を知ろうともしない → 「大卒資格」を取得できれば
どの大学でも良い

「大学」を知らない → 高校までの教育機関との違いや時代によって異なる大卒者の割合を知らないまま、大学に通っている

スライド12



学部からの要請
キャリア意識の低下が懸念
卒業後の進路が決まらない
まま卒業してしまう学生も
多くみられるなど、さまざま
な問題が出現。
彼らが自分の将来を考えて
くれる方向へと指道していく
必要性がある

自身が“今”通っている「大学」について知らないことが多い

他大学の創設者を知っているのに、自分が通っている大学の学長名を知ろうともしない → 「大卒資格」を取得できれば
どの大学でも良い

「大学」を知らない → 高校までの教育機関との違いや時代によって異なる大卒者の割合を知らないまま、大学に通っている

自分自身が“今” いる場所 (大学) を意識
させることで、就職活動の支えになりたい

スライド13

2種類の自校教育		
科目群	科目名 など	対象者
資格 教職課程	特別活動論 ※ 教職入門	教える立場として必要な 教育理念 (帝塚山教育など) と 創設時の歴史 を中心に
一般教養	社会と人間 (教育) ※ 特別講義 (キャリア形成 I)	現在の大学 (学長名等) と 大学・学園の 教育理念 や 歴史の変遷 を中心に
その他	入学式 (2019年のみ)	時代背景とともに紹介

スライド14

2種類の自校教育教材

クイズ形式を用いた自校教育
『Let's TEZ』



自校教育テキスト
『はじまりの物語』



スライド15

クイズ形式を用いた
自校教育
『Let's TEZ
帝塚山大学“学”』



目的

- 大学の歴史や教育理念の理解を促進
- 不本意入学生に本学を知ってもらう
(願わくば、知ることで好意的に受け入れてもらいたい)
- 学習意欲の向上

スライド16

クイズ形式を取り入れた理由

- 本学に入学したことをポジティブに捉えられていない不本意入学生が、**敷居低く参加できる方法を模索**
- 葛城浩一先生『香川大学検定』の取り組みを参考に



スライド17

クイズ形式を用いた
自校教育
『Let's TEZ
帝塚山大学“学”』



特徴

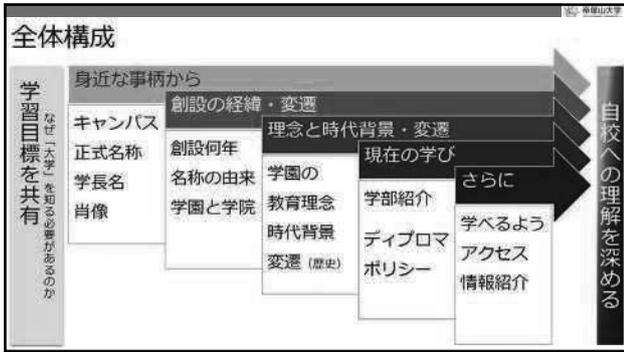
- 参加型授業 (当初紙、現在Google Forms)
- 自校史と時代の歴史を組み合わせている

スライド18

大学を知る 3回シリーズ

- Let's TEZ (自校史)
- 大学と学校の違い
- 大学史 (「大学」とはなにか)

スライド19



スライド20

1. 学習目標の共有

スライド21

2. 参加方法の説明

スライド22

3. 身近な事柄から (両キャンパス名、正式名称)

スライド23

3. 身近な事柄から

スライド24

3. 身近な事柄から → 4. 創設の経緯・変遷

スライド25



スライド26



スライド27



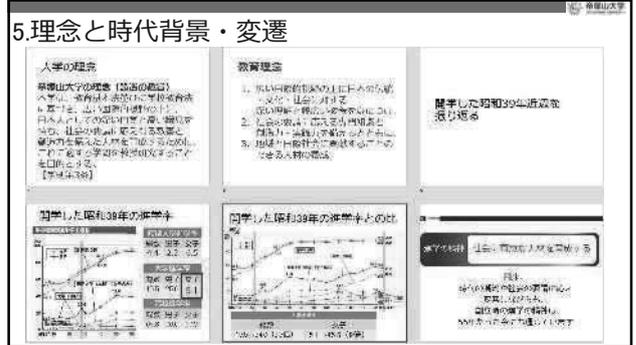
スライド28



スライド29



スライド30



スライド31

現在の学び

スライド32

さらに・・・

スライド33

2種類の自校教育教材

クイズ形式を用いた自校教育『Let' s TEZ』

自校教育テキスト『はじまりの物語』

スライド34

自校教育テキスト『はじまりの物語』

2019年
入学式に新入生向けにリーフレット配布
※ 入学式で15分程度の大学紹介を行う

2020年
2019年入学式資料を基に作成
2020年3月初版発行
(現在第4版)

入学式用リーフレット
本文3頁、巻末アンケート付

スライド35

自校教育テキスト『はじまりの物語』

大学が「自己紹介(自「校」紹介)」をしている雰囲気大切に作成

目次

巻頭のことば
帝塚山大学はじまりの物語
「この丘」ってどの丘?
教育の根本理念と教育方針
帝塚山大学の理念(設置の趣旨)
実学の帝塚山大学
歴代学長・帝塚山大学沿革
学部・学科・大学院研究科の変遷
帝塚山大学の建物写真館
二つの「館」に行ってみよう

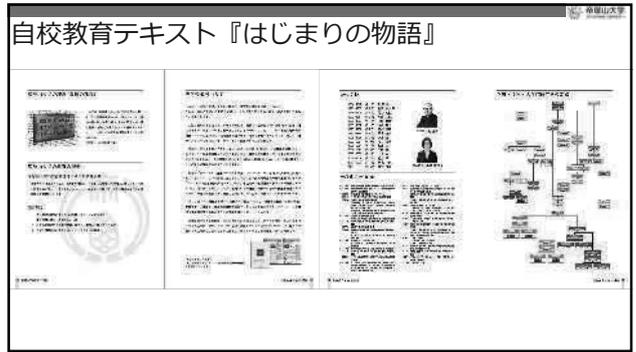
スライド36

自校教育テキスト『はじまりの物語』

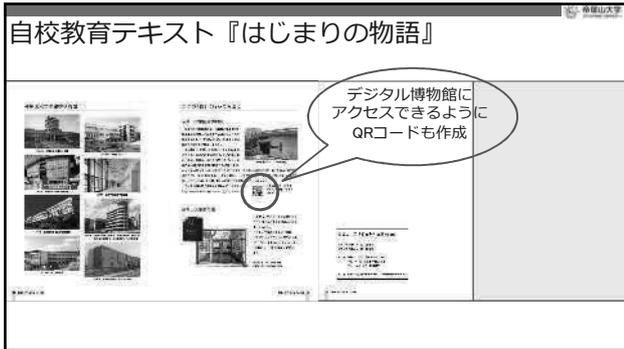
スライド37



スライド38



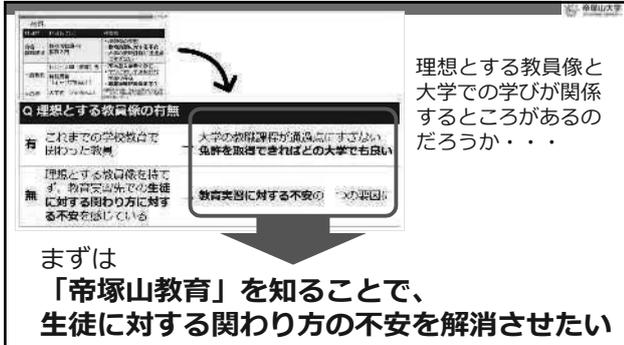
スライド39



スライド40



スライド41



スライド42

2015年度 教職課程 履修学生

3.3.1 自校教育受講による変化: 度数分布結果

教育実習未参加学生が、学生自身が行った大学の教育理念を知るための自校教育を受講後、関わり方の不安や関わり方のイメージなどに対してどのように変化したかを表4に示した。

表 4 自校教育を受講したことによる変化の度数分布

	自校教育を受講したことで			自校教育受講前より、他学部がイメージしやすくなった
	関わり方の不安が軽減された	関わり方をイメージすることができた	関わり方のイメージが明確になった	
その割合	5(12.2%)	7(17.0%)	6(13.3%)	8(18.2%)
変化なし	27(65.9%)	27(67.0%)	24(58.8%)	29(70.7%)
変化がなかった	9(22.0%)	6(13.3%)	11(26.9%)	4(9.8%)
変化がなかった	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)

元根明美「教員養成における自校教育：生徒との関わり方を中心とした教育実習不安解消に向けて」
帝塚山大学人間環境科学研究所 巻24号号5-24 2017年03月

スライド43

2023年度 感想 (帝塚山大学で学ぶ)

帝塚山大学には長い歴史があり、たくさんの教員の人たちが子どもたちに深い知識をつけてあげたいという思いから発展していったということが分かりとても誇り深く感じました

森磯吉先生は現在でも目標とされている「『なぜ』を問う教育」を目標としていました。これからは、私も「なぜ」を考えて学んでいきたいです。

今回の授業で1番心に残ったのは、**子どもはその両親たちの宝だ**ということを理解した上で教育をしていく必要がある。という話です。子どもたちがのびのびと学んでいけるような環境づくりと知識がどの教員も求められているので**子どもたちが考えて主体的に学習できるようにサポート**していけるような教師になりたいと強く思いました。

スライド44

2023年度 感想 (帝塚山大学で学ぶ)

今回の授業を受けて気づいたことは、**自分が思っていたよりも大学について知らないことが多い**ということです。自分の通う大学はどんな歴史を持っていて、何を大事にしているか**知っている必要がある**と感じました。今までは、授業をただ受けているだけでしたが、**今後はどんな大学でどのようなことを学んでいるか明確にしながら大学生活を過ごしたい**と思いました。

入学する時に調べて知っていた内容はあったが、学校の歴史について知らないことが多かった。今後、2年半通っていくなかで帝塚山大学について知っていこうと考えた。この大学で、**今、深い学びが出来るのは、生徒や先生方のおかげである**と考えることが出来た。そのため、受け継がれてきた想いを大切に、大学生活を送って、卒業したときに大学について誇りをもって話せるようになろうと思った。

学校設立には**いろんな思いが込められている**ということである。ただただ学校を作りたいだけでなく、こうなってほしいというような願いが込められて作られていることを知った。そのため**私たちはこの思いに応えなければならない**と思った。だから私は**社会で活躍できるようにしっかり学んでいきたい**と思った。

スライド45

2023年度 感想

学校のことを**クイズ形式**で知ることにより楽しく、また知らなかったことについてよく知ることができた。

今は大学の周りの雰囲気もガラッと変わっていて**歴史を知るのも楽しかったです**。まだまだ知らないことばかりなので少しずつでも**大学について知って行きたい**と思いました。

私は**オープンキャンパススタッフ**をしているのですがその際に帝塚山大学について聞かれることが何度ありました。今までは自分の知識のみで分かる程度の返答を行っていましたが、**魅力を伝えるためにも帝塚山学生としての責任を持って言動するためにも**本学のことをもっとしっかり知っていききたいと思いました。

スライド46

自分が“今”通っている「大学」について知らないことが多い

「大学資格」を取れば、どの大学でも良い

高校までの職自體目との違いや時代によつて異なる入試等の内容を知らない人は、大学に通っている

学部からの要請
キャリア意識の低下が懸念
卒業後の進路が決まらないまま卒業してしまう学生も多くなり、さまざまな問題が出現。
彼らが**自分の将来を考えてくれる方向へと**指導していく必要がある

自分自身が“今”いる場所(大学)を意識させることで、就職活動の支えになりたい

スライド47

2015年度 履修学生

図1 マイナビのイメージを持って入学した学生の反応

図2 マイナビイメージを持って入学した学生の反応

元祖明美「自校教育の取り組みが、学生の自校への愛着、誇り、居場所づくりに効果があるのか」帝塚山大学人間福祉科学研究部 専任教授(元) 2018年

スライド48

2015年度 履修学生

③「居場所づくり」は新入生に限らず、入学してから帝塚山大学のことをあまり知らなくて、自分でも全然知らなかったまま、8カ月ぐらい経ってしまったけど、改めて帝塚山大学のことを知って、全身が震っていたよ。私も、もっと家で勉強した上で来た。④これは長年かかると自分から知っていたことかと思いました。

「何となくに入学したこの帝塚山大学、ここにこんなに長い歴史があると聞いていなかった。でも、⑤今回の授業で大学の歴史を知って、帝塚山大学に入ってきたよ。⑥(略)自分の通っている学校の歴史を知ることが必要なんだと思ったし、読んでいないといけないとも思った。」

⑦「進学の時に学校の心理学的なことを、それ以外からなんです。当の上大学のことは知らなかったよ。⑧この学校に入ることを決めたんです。」

以上の感想は、元々大学に対して所属感が無い状態であり、それを自覚しない状態であっても、自校教育を行うことで「来てよかった」と自校への所属感、居場所づくりの意義に一定の効果があることが示唆されている。 元祖明美「自校教育の取り組みが、学生の自校への愛着、誇り、居場所づくりに効果があるのか」帝塚山大学人間福祉科学研究部 専任教授(元) 2018年

スライド49

2015年度 履修学生

5) 多様な効果2:到達目標「大学における学習意欲を高める」との関連性
 自校の歴史や理念を知ることで、今後進みたいと述べた感想があった。
 「帝塚」大学は家から遠いし、レベルが低く入学するのをかなり迷った。(略) 今
 までこの大学でよかったのは不安ですが、良い歴史が残り知ることができたので
 進めば良かったと、自分で進んでいく予定です。」
 「帝塚山大学のことについては自分にも知らないことがあるかと思われた。
 最初は興味本意で話を聞いていたけど、話しを聞いていうちに帝塚山のことをもっと
 知っていきたいと思うようになった。(略) 当年度卒業した後、自分の母校は
 どんな歴史をもつてきた大学かなんかと言うのを色々友人に話を聞いてみる
 ようにしたいと思った。」
 「キャンパスもなかなかと名前も聞けない帝塚山大学の生徒に聞かしたいと思いま
 した。別知らなくてもいいけど、知って進めることはない。私たちがとるべきでみよ
 うと頑張る。(略) 進めようと思ってる。(略) 進めようと思ってる。」

元稿原簿「自校教育の取り組み：学生の自校への愛着、誇り、帰属感づくりに効果があるのか」
 帝塚山大学人間環境科学研究 巻23巻号10、2014年

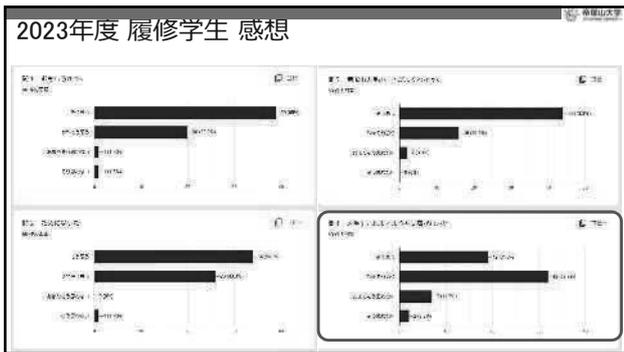
スライド50

2015年度 履修学生

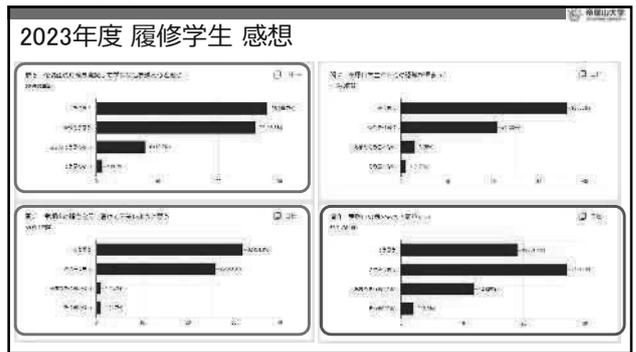
6) 多様な効果3:不本意な入学学生への効果
 「大学のことなんて入学してもほんとうに興味なかった」ので正直、私にも知りません
 でした。でも授業で聞いてよかったです。(略) 大学はイメージだけで決めつけてはいけな
 いと改めて感じました。「入ってみて帝塚山のように気づけてよかったです。」
 「楽しく充実している大学生生活を送れているのは親がいてくれるからであることを
 忘れないで仲間をすぐそうと改めてこの授業を聞いて思った。」
 「私は帝塚山大学を好んで入学したわけではない。(略) 知らなかった帝塚山の歴史を知
 れてよかったと思います。」
 「入学前のイメージしてガラが悪かったり、良くないイメージがあったけど、改めて考
 えてみるとそれほどでもなかった。」

元稿原簿「自校教育の取り組み：学生の自校への愛着、誇り、帰属感づくりに効果があるのか」
 帝塚山大学人間環境科学研究 巻23巻号10、2014年

スライド51



スライド52



スライド53

2023年度 履修学生 感想

Figure 53: 2023 Student Feedback Comments. The figure shows a grid of text boxes containing various student comments. The comments express appreciation for the course, the university's history, and the opportunity to learn about the campus and faculty. Some comments mention the course's impact on their future career choices and their renewed interest in the university.

スライド54

他にも・・・
 学生に学内のお気に入りの場所の写真を撮る課題

Figure 54: Photography Assignment Slide. The slide features a dark background with white text. It reads: '今回の課題は、みんなが選んだ Tez 写真の発表もあります。投稿率しみにしています。' (This time, we have presentations of photos chosen by everyone. We are looking forward to the submission rate.) Below this, it says '2022キャリア形成 I 大学のお気に入り' (2022 Career Formation I University's Favorite). At the bottom, there is a button that says '今週末は「Tez」投稿です!' (This weekend is 'Tez' submission!).

提出された写真は動画にして後日、授業内で共有

スライド55

1. 発表者が行った自校教育の実践
2. 自校教育を行った背景
3. 2種類の自校教育と2種類の教材
 - ・ Let's tez (クイズ形式の自校教育)
 - ・ 『はじまりの物語』自校教育テキスト
4. 反応
5. 自校教育の役割とは

スライド56

人間関係

「学ぶ環境づくり」
学習者の関係性づくり
・アドベンチャーカウンセリング
・LEGO SPIKE (ロボット) を活用した学びに向かう力の育成
※失敗に対する心の壁を崩す
主体性、仲間と協調

自校教育は「人間関係」による居場所と大学への所属感をつなぐ糸のようなものではないだろうか？

大学

どんな理念を持ち
どんな歴史をもつ
どの大学で学んだか

スライド57

adventure based counseling

個人やグループの行動変容のために行なうグループカウンセリングの手法。体験学習のアクティビティを用いる。

「学ぶ環境づくり」
学習者の関係性づくり
・アドベンチャーカウンセリング

河川敷 (東海大学文学部) 小島 (東海大学文学部国際センター) 「アドベンチャーカウンセリングの活用実践」 『東海大学文学部で実践している学修の最前線』 『人間関係科学』 29号 (2021年)

ABC体験をきっかけとして、クラス全体が「コンフォートゾーン」に変容していく

スライド58

「間違っていいから、いろんな操作をしてみると、新たな経験ができるし、成功したときに達成感が強くて、挑戦することって大切だ」という気持ちになった。」

「学ぶ環境づくり」
学習者の関係性づくり
・LEGO SPIKE (ロボット) を活用した学びに向かう力の育成

スライド59

「1人ではなく、誰かと協力して1つのものに取り組むことは、協調性を育むことができます。と思いました。」

「学ぶ環境づくり」
学習者の関係性づくり
・LEGO SPIKE (ロボット) を活用した学びに向かう力の育成

スライド60

人間関係

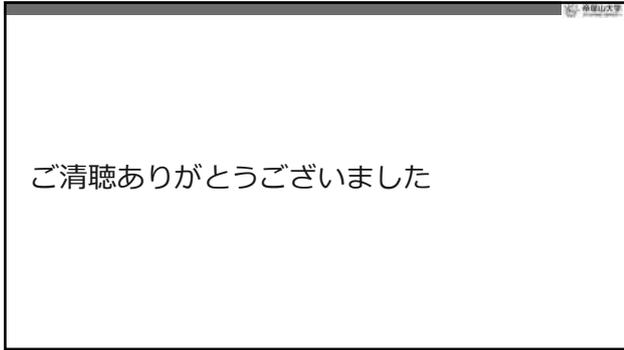
「学ぶ環境づくり」
学習者の関係性づくり
・アドベンチャーカウンセリング
・LEGO SPIKE (ロボット) を活用した学びに向かう力の育成
※失敗に対する心の壁を崩す
主体性、仲間と協調

自校教育は「人間関係」による居場所と大学への所属感をつなぐ糸のようなものではないだろうか？

大学

どんな理念を持ち
どんな歴史をもつ
どの大学で学んだか

スライド61



スライド1

大学における自校教育の効果と課題

宗教系私大の「建学の理念」科目の事例報告とその課題

2024年2月23日 第29回フォーラム

龍谷大学 大谷由香



スライド2



建学の精神

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、思いやりと感謝をこめて愛する精神に由来しています。それは、自己中心の私利私欲によって、高慢を相手に自ら押しつけようとする姿勢を指します。徳の心は自己中心性を離れ、他者のために生きることを旨とする姿勢を指します。新嘗祭の儀に由来し、自らを他者と共にある存在と捉え、初めて真の自己・他者・社会関係を築くことが求められます。広く愛の心を育むことが求められます。

本学は、宗教の道徳に基き、自らを他者と共にある存在と捉え、初めて真の自己・他者・社会関係を築くことが求められます。このことを実践する心として以下に掲げられています。これらは、建学の精神として、生き方を示しています。

- すべてをいのちを大切に「平等」の心
- 高慢を排し謙遜に生きる「徳」の心
- 思いやりと感謝をこめて「愛」の心
- 生きるとは何かを「真実」の心
- 人間の尊厳と責任を重んずる「責任」の心

建学の精神の具現化

龍谷大学では、正課・正課外を問わず、「建学の精神」に基き、全学的な人間育成の取り組みを通して、「真実を求め、真実に生き、真実を説く」ことのできる人間を育成します。

- 建学の精神

正確視覚

全ての学部及び短期大学部に必修科目として「仏教の思想」(4単位)を開設しています。前期「仏教の思想」(2単位)は世界の宗教と対比し、後期「仏教の思想」(2単位)は龍谷聖人の生涯と対比して学びます。また、「教員研修」に関する講義など多様な仏教・浄土真宗に関する科目を開設し、文学部の真実・仏教を専攻する学生だけでなく、全学の多くの学生が学んでいます。

スライド3



スライド4

- 宗教系私大「建学の理念」科目が抱える課題

- 「建学の理念」科目は、全ての学部・学科の学生が受ける講義という性質上、多人数クラスになりがち。→学生一人一人へのフォローが難しく、一方通行の講義になりがち。
- 多くの教員が同一の講義を担当するので、クラスにより内容の濃淡が出てしまう。
- 学部・学科により、学生の学問的関心は当然異なるため、「どうしても学部に入ったのに、仏教の講義を必修で受けたくない」という不満は必ず出る。「宗教」に対する忌避感のある学生も多い。
- 無批判な宗教宣伝になりがち。いろいろな背景を持つ学生が存在することを忘れてはならない。
- 学生本人の学部・学科での学びに接続しにくい。



スライド5



2011年度～
龍谷大学龍谷ミュージアム(編集)
『釈尊と親鸞:インドから日本への軌跡』

2019年度～
創立380周年を機に「仏教SDGs」を提唱

仏教SDGsとは

「誰一人取り残さない」という理念のもと国際社会が取り組んでいる持続可能な開発目標(SDGs)。佛敎の精神を軸に、その理念に共鳴する活動に取り組むことで、SDGsの達成に貢献できることを目指しています。

いま私たちが、世界に誇ることができるのは、知識を身につけ、他者とつながり、共に成長することです。その過程から生まれる個人の尊厳、社会の発展を促していきます。

仏教をベースに、龍谷大学は、「仏教SDGs」という行動指針を打ち出しています。各学部各学科で取り組む活動は、既に存在するもの、新たな取り組み、他(他学部・他大学)との連携を推進することを期待します。

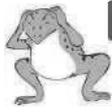
佛敎の精神を軸に、SDGsの達成を目指す活動は、社会に貢献できる人々の育成、成長につながる「仏教SDGs」の取り組みです。

スライド6

「仏教の思想」科目担当教員に期待されること

- 龍谷大学の「建学の精神」の理解促進と愛校心の育成

- 前期は「釈尊」を中心とした講義、後期は「親鸞」を中心とした講義
- 教科書あるいは副読本として『釈尊と親鸞:インドから日本への軌跡』を使用
- 「仏教SDGs」理念についての理解促進



第4分科会

スライド7

「誰一人取り残さない」＝摂取不捨

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

スライド8

2022年度仏教の思想(前期) 講義計画

日期	議題	議題の解説
4月13日	空の心	「仏教の思想」概論・龍谷大学・龍谷
4月20日	釈尊の生涯	釈尊はどのような人だったのでしょうか
4月27日	釈尊の教え	釈尊の教えの目的や目的を達成するための方法について解説します。何を教えたのかについて解説します。
5月4日	戒律	戒律は生活の指針として、修行者のみで修行生活を送ることによって成された。
5月11日	出家と在家の区別	釈尊は出家して修行生活を送りましたが、弟子の中には出家しなかった人もいました。
5月18日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
5月25日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
6月1日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
6月8日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
6月15日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
6月22日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
6月29日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
7月6日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
7月13日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
7月20日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
7月27日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
8月3日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
8月10日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
8月17日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
8月24日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
8月31日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？
9月7日	在家の修行者たち	在家の修行者たちはどのような生活を送っていましたか？

龍谷大学の成立について説明し、なぜこのような「建学の精神」となったかを理解させる。

「釈尊」の宗教的特色を解説

仏教の思想から摂取不捨の思想がどのようにして「戒律」(紀元前5世紀頃)や弟子たちの修業(須菩提)や弟子たちの修業(須菩提)や弟子たちの修業(須菩提)などを取り上げ、現代の視点からどのように考えるかを挙げて解説

「釈尊」以外の仏教史を解説

スライド9

10 人や動物の命を大切にしよう	5 5月19日	出家とは何か？	釈尊は家庭生活を捨てて、修行者の中で修行生活を送ることを求めました。
5 ジェンダー平等を推進しよう	6 5月26日	女性出家者の誕生	仏教は男性にも出家生活を認める宗教創設でしたが、運営にはいろいろな問題が起こりました。
8 豊かさを増やそう	8 5月30日	ジェンダーを超える人々と仏教	出家した後に自身の性に違和感を感じたらどうしたらいいの？
8 豊かさを増やそう	7 5月23日	現在の出家者たち	現在も出家修行を行っている方がいます。どのような生活をしているのでしょうか。
3 気候変動に具体的な対策を	9 6月6日	病気に苦しむ修行者	病気になる修行者たちはどうしたの？
3 気候変動に具体的な対策を	10 6月13日	自死する修行者	釈尊の弟子たちにも自死する者がいました。

スライド10

16 平和の文化を育もう	11 6月20日	戦争と釈尊	釈尊は戦争にどう対応したのでしょうか。
14 海の豊かさを増やそう	13 7月4日	儀式仏教	亡くなった釈尊はどのような儀式をしたのでしょうか？また、釈尊の最期の言葉とは？
15 陸の豊かさを増やそう	12 6月27日	自然破壊と釈尊	人間が文明を築けば、同時に自然は破壊されます。釈尊は自然にどう向き合おうとしたのでしょうか。

スライド11

● 講義運営のイメージ

初回

90分

講義

講義

講義

前回の講義後に提出された
・理解度小テスト
・講義要点
・感想と質問
を紹介。

→前回の講義の復習と、フィードバックを兼ねる

毎講義終了後にRESPONで小テストなど実施

スライド12

● 講義運営のイメージ

Manaba course のスレッドを使用し、キャンパス内にある“龍大法語”を収集させ、共有。

manaba

【目的】
・キャンパス内探検。
・manaba course の使い方を知る。
・さまざまな“法語”に触れる。

【ごほうび】
・25個集めた学生には、“龍大グッズ”をプレゼント！

スライド13

講義例 女性出家者の誕生

“**釈尊は、女性が出家することを認めた**”

都合のよい資料

当時（紀元前5世紀頃）の古代インド社会において、女性が自身のために「出家」して「修行」すれば「さとりを得る」ことが認められることは画期的なこと。

→ 建学の精神を実現する心「すべてのいのちを大切に」「平等」の心」を解説しやすい

都合の悪い資料

×釈尊は当初、女性の出家を認めなかった。「本来であれば正しい教えがこれから千年にわたって続くはずなのに、女性の出家を許したために、五百年に短縮されることになった」と弟子に八つ当たり
&女性はどうなにか修行しても今日出家したばかりの新人に最敬礼をするように指示/男性出家者に比べて不平等に厳しい規則を課す

→ 仏典に記述されている「女性差別」表現をどのように伝えるか

スライド14

講義例 女性出家者の誕生

女性出家者の規則（律）の中には…

『四分律』比丘尼（出家成人女性）捨墮第28
月経のために衣服を汚してしまった女性に対し、ブッダは「これからは月経のときには、そのための布（遮月期衣/病衣）を付けなさい。外れてしまいうな時には帯を調節しなさい」と指示した。また「月経時に在家信者の家に行くときには、衣服の上にもう一枚衣（涅槃僧）を着用し、「しんどいのです」と伝えなさい」と指示した。
また「月経時に使う布（遮月期衣/病衣）を特定の誰かにだけ貸してはならない（突然の月経に困った人がいれば誰にでも融通しなければならない）」と指示した。（大正22・732中）

『四分律』比丘尼毘度
結跏趺坐の修行をしていた女性が突然の月経により脚やかかとを血で汚してしまったとき、ブッダは「比丘尼は結跏趺坐をしなくてよい、半跏趺坐にしなさい」と指示した。（大正22・930上）

← 釈尊が“女性の修行生活を肯定的に見守った”少なくとも、女性特有の悩みに対応しようとした男性の仏弟子が存在したことの証

← 女性特有の事情に対応するために作られた規則も存在

スライド15

講義例 女性出家者の誕生

男性出家者の規則（律）の中には…

『四分律』比丘（出家成人男性）捨墮第8・17
「美しい女性出家者に、自分の衣類の洗濯をさせてはならない」「美しい女性出家者に、自分の衣類の染め直しをさせてはならない」

「家事は女性の仕事」という価値観からの脱却

← 釈尊が“女性の修行生活を肯定的に見守った”少なくとも、女性特有の悩みに対応しようとした男性の仏弟子が存在したことの証

← 女性が修行に専念するために比丘が配慮するよう指示する規則が存在

- 当時の男尊女卑を当然とする社会風潮の中で、釈尊やその弟子たちは、可能な限り「女性のさとりに」向き合った——とみることは可能
- 釈尊であっても“生きた時代・環境”によって行動や思考を限定されて、現代の私たちが思う“男女平等”は実現できなかった。

スライド16

お釈迦さん時代の**佛教教団**

出家者（二・三ト集団）
推し活としての布施
経済的に支持
二・三ト集団を
在家者

私たちができない生活をしている人たちが応接したい!

真実を追究するためには、世俗生活を捨てなければならぬ

修行のみの二・三ト集団

スライド17

講義例 女性出家者の誕生

●釈尊であっても“**生きた時代・環境**”によって行動や思考を限定されて、現代の私たちが思う“**男女平等**”は実現できなかった。

社会が女性に対して差別的な視線を送り続ける限り、その社会に経済的に依存する出家教団である以上、どのような理想を掲げようとも、その社会の常識を盛り込んだ女性の扱いしかできなかった。

私たちが“生きる時代・環境”は変えられる!

これまでも様々な人々の尽力によって、時代・環境は変化してきた。現代日本は釈尊が生きた紀元前5世紀の古代インドとは異なる。
紀元前5世紀の古代インドで「女性もさとりを得られる」と言った釈尊が、現代日本に生きていたら、どんなことを言い、どんな風に振舞っただろうか?

どんな社会に生きたいか、そのためにどのように生きるべきか、一人一人が考える必要がある

諸行無常

スライド18

講義例 女性出家者の誕生

釈尊の遺言
自灯明 法灯明
ブッダが遺した教えをより所としながら、しかし自分でハンドルを切っていく人生を送れ!

釈尊の死後…
釈尊の弟子・摩訶迦葉は、仏弟子のうち、釈尊と同等のさとりを得た者(阿羅漢)500人を集め、釈尊が説いた教えと、教団内規則をまとめた(結集)。このとき、阿難はかつて釈尊が、自身の死後には「羅刹戒(あるいは小々戒)」は改めてよい」と述べたことを告げる。(『四分律』)

「**真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする**」

能谷大学「建学の精神」を実現する心

- ・ すべてをいのちを大切に「平等」の心
- ・ 真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・ 常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・ 生かされていることへの「感謝」の心
- ・ 人類の対話と共存を願う「平和」の心

スライド19

講義後提出感想例

◎自身の学部・学科での学びを軸む上でのヒントとして生かしていきたいが…そこまでは届かず。

「今日の講義を聞いて本当に昔は全部平等ではなくて、すごく嫌な気持ちというか複雑な気持ちになりました。しかし、「自尊は自分の死後に絶望感に代わってよい。」と言ったことは、「今のままの社会は良くない。これから女性たちがすごしていく時代はもう少し住みやすいしややすい環境にしていくべきだ。」と考えていたのではないかと思います。そこから、建学の精神である平等の心に繋げていき、自分たちで考えて改良していくような考え方が必要だと感じました。

「今回の講義で、平等の精神を改めて、社会構造から宗聖に至るまで人間が平等で扱われることは少し難しかった。性別や生い立ちから差別的な言葉をかけられたり、距離を置かれたりしてしまうことは現在でもあると思う。私教でも、男女問わず出家が認められていない事があったり、神が女性の方が厳しかったり、自身の意思とは無関係の事象で分けられてしまうことは非常に悲しい。だからこそ釈迦様は厳格に男女平等の実現を願ったと思うし、一人一人がこの事を意識して、偏見の目を無くしていく事が大切だと思った。

「まず仏教の最初が女性に対して平等でなかったのに関いた。しかし、その時代はその時代で平等になるようには努力していたので、私たちの時代はもっと良い環境にあると思うので私たちが世界を平等にすることができると思った。

スライド20

●宗教大学独特の「建学の理念」教育を行った所感

・SDGsなど、学生が中高生段階で知っていることを切り口とすることは、それまで馴染みのない“宗教”を理解させる上では有効。
＝担当教員は研究・専門分野だけでなく、関心が社会に開かれている必要がある。

・大学教育の場として講義を行っているのであって、信徒への法話ではないことを意識する必要がある。他の宗教を背景として持つ学生であっても「建学の精神」が理解できるような講義でなければならない。(大学教育としての宗教＝NOT法話)

・宗教にはその成立における独特の背景があり、現代的な思想・理念とは相容れない不都合な文言などもある。それぞれの学生が、それぞれの学部・学科で“研究”を行うことを考えたとき、不都合なものでも研究者として提示した方がよい。

・“不都合な真実”を提示した上で、“自身で考える”力に結びつけるためには、宗教そのものの解説に留まらず、歴史や文学(どのように語られ/研究されて現在に至るか)の力を借りる必要がある。